

U-GETS工法 (水中控え工法)

UnderGround Efficient Tierod System

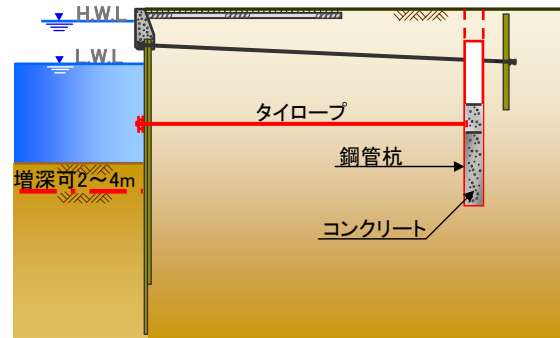


目的

- 岸壁の機能増 (水深増、上载荷重増)
- 岸壁・護岸の耐震化、準耐震化
- 岸壁・護岸のリニューアル

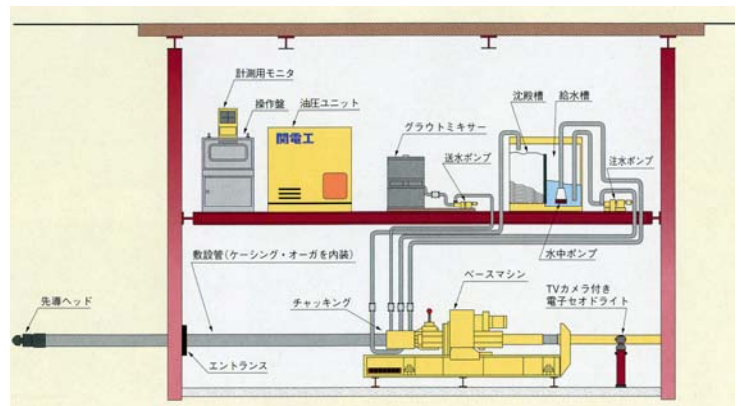


岸壁・道路を供用しながら補強できる



特徴

- ① 護岸背面からタイロープ (タイロッド) を地中工事 (小口径推進工法) により岸壁の耐力増を図る。
- ② 基本的に岸壁 (水際線の前面) を利用しないので船舶の接岸を制約しない。
- ③ エプロン背後の工事用占有面積は約 200㎡と小さく、岸壁水際線からの距離の制約を受けない。また、地中工事なので空間制約時間が少ない。
- ④ 振動、騒音障害を起さない。
- ⑤ 既往技術の延長であり、安全性の確認がなされている。
- ⑥ 矢板式、重力式のいずれの補強にも活用できる。
- ⑦ 従来の地盤改良方式や前面栈橋式に比べて経済的である。



■ 小口径推進工法例 (アリトン工法)

概要

